

筑波キャンパスから排出される廃棄物の大幅な減量化を実現

- 1 本学は、環境改善や経費削減の観点から、筑波キャンパスから排出される廃棄物の中から資源ごみを回収し売却するシステムの実証実験を行ってきましたが、このたび、廃棄物を大幅に減量化し、この3年間で、約2,400万円の廃棄物処理経費を削減するとともに、約700万円の資源ごみ売却益を得るという大きな成果が得られましたのでご報告します。
- 2 この実証実験を行ったのは、筑波研究学園都市を環境モデル都市、科学技術都市、科学教育都市にすることを目指す「つくばエコシティ構想」の推進や学内環境の改善に取り組んでいる「つくばエコシティ推進グループ」（グループ長：学長補佐・生命環境系・井上勲教授）です。
- 3 この実証実験は、平成22年9月から開始したもので、キャンパス内32か所に設置した「エコステーション」に集積した廃棄物の中から、ペットボトル、ペットボトルキャップ、空き缶、空き瓶、古紙類等リサイクル可能な資源ごみを分別、回収し、これらを売却するシステムを構築して行いました。また、実証実験の一環として、毎年春に新生生を対象に実施しているフレッシュマン・セミナーで、環境教育に関する講義・実習を行ったほか、課外活動団体にエコステーションにおける資源ごみの分別・回収作業を体験させる活動（ミニ・エコステーション活動）を行いました。
- 4 その結果、筑波キャンパスの年間の一般廃棄物処分量は、実証実験実施前の平成21年度には2,905トンであったのが、平成24年度には1,582トンと、約45%の減量化を実現することができました。
- 5 また、この廃棄物減量化により、本年8月までの3年間で約2,400万円の廃棄物処理経費を削減しました。また、廃棄物の再資源化により、3年間で約700万円の資源ごみ売却益を得ることができました。（合わせて3,100万円以上の利益）
- 6 さらに、実証実験開始後、筑波キャンパスの資源ごみの分別状況が年々向上するなど、学生や教職員に対する教育効果も認められました。
- 7 実証実験は今年度で終え、来年度以降は、これまでの取組みを「環境改善推進事業」として位置付け、廃棄物の減量化や再資源化、環境教育に一層努めてまいります。

【問合せ先】

企画室

電話：029-853-2046

E-mail：kikakusitu@un.tsukuba.ac.jp